

B301 相談室

Q15

美術の授業で生きる生徒指導の視点

Vol.6 花輪 大輔



日文の Web サイト



日文 🔍



美術の授業が 上手いくコツって ありますか？

A先生：先生、ご無沙汰しています。今日は午後から全市の研修会があって、直帰でよかったので、久しぶりにお邪魔しようとなつて。

花 輪：久しぶり、よく来てくれたね。

A先生：それで、二人とも折り入って相談があつて。

花 輪：仕事で悩むのは普通のことだし、教師として悩み続けながら成長してるってことだよ。

B先生：そういつてもらえるとありがたいのですが、どうしても落ち着かないクラスがあつて、指導力不足かもつて。

花 輪：課題が見えているなら克服していけばいいんだよ。後ろ向きになってたら建設的になれないでしょ。

B先生：頭ではわかっているつもりなんですけど、何から手を付けていいものか。

花 輪：わかる、わかる。僕も今でもそうだし、少なからず誰だってそういうことあるよ。具体的に話してみて。

A先生：では、僕から。課題にはしっかり取り組む生徒は多いのですが、授業に前向きに取り組めない生徒もいて。そういう生徒が少数のクラスでは個別の支援で何とかできることが多いのですが、人数が多いクラスではチャラチャラした空気になったり、授業と関係ない話題に終始したりするんです。授業が上手いくコツってありますか？

花 輪：もしかしたら、美術の学びについてのコンセンサスを図ること、つまり合意形成が一部の生徒と取れていないかも。でも、生徒のせいにしてしまうとそれこそ建設的にな



悩みや質問は、B301 研究室へ GO !

らないし、直接見たわけではないから原因の特定とかもできないんだけど、今日は生徒指導と教科指導の話をするね。

B先生：生徒指導ですか？

花 輪：そう。コツと言えるかわからないけど、授業に前向きに取り組めない生徒の問題については、Q4の態度形成で触れたことをあらためて生徒指導の視点に焦点を当てて話をするね。

A先生：確か自己実現と積極的生徒指導でしたか。

花 輪：よく覚えていたね。Q4では、対処療法的で消極的とされてきた生徒指導に対して、積極的生徒指導の話の一つのトピックとして扱ったんだけど、ここでは令和4年に12年ぶりに改訂された「生徒指導提要」を頼

りに美術の授業で生きる生徒指導の話をしてみようね。

B先生：改訂されたことは知っていましたが、詳しい内容までは。

花 輪：学習指導要領と一緒に大事な幹はそうそう変わるものじゃないけど、随分書き味は変わったと思うよ。
細かいことはここでは触れきれないから自分でしっかり読んでほしいんだけど、まずは**生徒指導の定義**を見てみよう。

ココがポイント POINT 1

生徒指導の定義

生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。なお、生徒指導上の課題に対応するために、必要に応じて指導や援助を行う。

【生徒指導提要】 P. 12

A先生：これって美術教育にそのまま当てはまっていますよね。

花 輪：そう思うよね。次は、**その目的**。

ココがポイント POINT 2

生徒指導の目的

生徒指導は、児童生徒一人一人の個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支えると同時に、自己の幸福追求と社会に受け入れられる自己実現を支えることを目的とする。

【生徒指導提要】 P. 13

B先生：やっぱりそのまま……ですね。

花 輪：大学生の時に聞いたことがあっても、自分が現場にいて実際に生徒と向き合っている文脈で聞いたわけじゃないから、子どもたちの顔を思い浮かべながら読めると思うよ。

B先生：焼き直してって大事なんですね。

花 輪：さて、Q4でも若干触れたんだけど、ここで書かれている「自己実現」は生徒指導用語とあっていいと思うんだ。かつての「生徒指導の手引き」にもしっかりと位置付けていたしね。生徒指導ではキャリア形成の文脈で触れられることが多いんだけど、教科の学習指導要領に「自己実現」が書かれているのは美術の特徴なんだ。

B先生：以前聞いた記憶があります。自己実現といえばマズローだったような。

花 輪：では、そこから話そうか。確かにA.マズローの欲求階層説（P.4）では人間の最上位の欲求として自己実現が説明されているよね。その概略はというと、大きくは人間には5つの欲求があって、下位の欲求がある程度満たされなければ、上位の欲求の発現が難しいといった理論だね。

B先生：自己実現への欲求が、最も高次の欲求でしたね。

A先生：それで、自己実現って結局どんなことでしたか。

花 輪：簡単にいってしまうと、自己の内面にある能力や可能性を、活動を通して最大限に発揮して成長・発達していくことかな。これを美術の授業に落とし込むとどうなると思う？

B先生：表現や鑑賞の活動の中で、自分のよさや可能性を最大限に発揮するってことですよね。

花 輪：概ねその通り。マズローやロジャースの言説では、生き方とか人生とか大きな話になってしまうんだけど、これを3年間の美術の授業で捉え直すことが大切だと思うんだ。ところで、第I段階から第IV段階までは欠損動機となっているけど、どういうことかわかるかい。

B先生：確か、ないから欲しいってことだったような。例えば、安全じゃないから安全や安心が欲しい、クラスで居場所がないから居場所が欲しい、人から認められないので認め

欲求のヒエラルキー (Maslow.A.H)



てもらいたいってことだったと思います。

花 輪：だとすれば、美術の授業レベルで考えられることって何があるだろう？

B先生：第II段階では、いじめをなくすことでしょうか。

花 輪：美術の授業レベルでできることに限りがあるにせよ、たとえ悪意がなくなっても人の作品を笑ったり、からかったりして精神的な苦痛を与えるような言動には、毅然とした、かつしなやかな指導が必要だと思うよ。自分の自由を認めてもらう代わりに他者の自由を認めること、これを「自由の相互承認」っていうんだけど、この感度を上げていくことは、どの教科にとっても大切な事だよ。

A先生：それって第II段階だけじゃなくて、他の段階にも関係しませんか。

花 輪：その通り。欲求の階層を厳密に切り分ける必要もないんだけど、マイナスをゼロにする視点じゃなくて、今度はプラスを生む視点で考えたらどうなるかな。

A先生：クラスの一員とか、みんなで認め合えるとか。

花 輪：そうだね。美術の授業レベルどんなことが想定できるだろう。

A先生：美術教師として、その子の活動を肯定的に

受け止めることですか。もちろんフィードバックも含んで。

B先生：今のことは教師のことですけど、生徒同士で認め合ったりする場面をつくることもあると思います。

花 輪：とても大切な事だね。制作はたとえ個人的なことであったとしても、学校の授業でみんなと学ぶことの意味ってあるじゃない。

A先生：例えば、デザインだったらアイデアの交流とか、絵や彫刻だったら作品の発表会とかでしょうか。技法や材料体験の場面で発見したことや気付いたことの交流とか。いろいろな場面でできそうですね。

花 輪：〔共通事項〕は美術にとっての独自性だから、特に造形的視点への「気付き」は、承認・称賛の対象となるし、他の生徒に共有したり、いろんなことができるんだ。

B先生：私は「対話的な学び」の意味を少し軽く捉えていたかもしれません。

花 輪：美術に対する生徒たちの感情は、いろんな意識調査などで肯定的な回答が多いんだけど、否定的な生徒が一定数いることも事実。そういう生徒には否定的な感情を持つに至る体験がきつとあって、それが学校、家庭、あるいはそれ以外で起きたかはわからないけど、その否定的な感情を放ってお

かないで、少しずつでいいからプラスに転じるような働きかけをしたいよね。

B先生：もしかしたら、改善点を指摘し合うような交流のときに、その気持ちを大きくさせていたのかも。

花 輪：美術の活動に否定的な反応を示す生徒がいるからって、気を遣いすぎてもよくないんだけど、生徒たちの心の準備状況がどうかは気にしたいところだね。

美術の学習内容の対象って幅が広いから、特定の分野で助けることが難しくても、それ以外の分野で助けられることもあると思うんだ。と、ここまでは欠損動機についてだったんだけど、その欠損動機が一定程度満たされると？

B先生：成長動機の出番ですか。

A先生：やっと自己実現の欲求の登場。

花 輪：うん。何度か触れたことはあるんだけど、僕はエスパーじゃないから、この生徒の自己実現欲求が発現したとか、承認欲求が満たされたとかは目には見えない。サン＝テグジュペリも言ってたでしょ。

でも、自己実現の欲求に「真・善・美」への欲求が含まれるわけだから、一人でも多くの生徒が「こうなりたい」って思えるような人的・物的な環境を整えたい。正確には、整えるように努力しないとだね。

特効薬はないけど、3年間の長期的な視点で、クラスの一員として、そして様々な気付きへの承認・称賛が美術の学習への合意形成、つまり自己実現を目指す生徒の支えになると思うんだ。

A先生：欲求階層って深いんですね。考えたことなかったです。

花 輪：今話した合意形成についてんだけど、「生徒指導提要」では、ルールに基づいて判断し行動しようとする**規範意識の醸成**が大切って書かれているよ。

A先生：学びの循環ってありますね。毎年、オリエンテーションで授業のルールには触れてたんですけど。

ココがポイント POINT 3

生徒指導と規範意識

一人一人の児童生徒が発達課題を通して自己実現するためには、児童生徒自身による規範意識を醸成することも大切です。

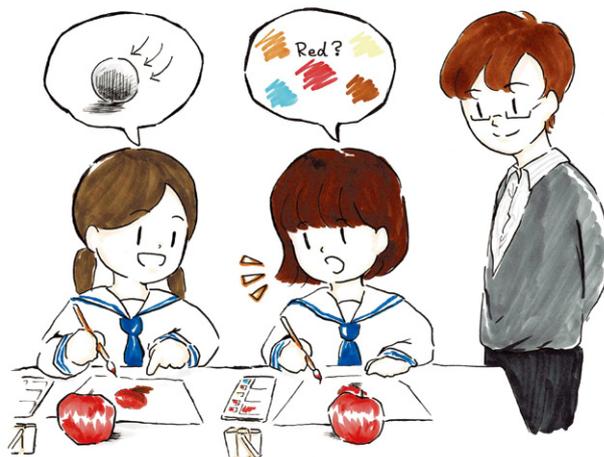
児童生徒が規範意識を身に付けることが、児童生徒にとって安全・安心な居場所づくりへとつながるからです。このような学級・ホームルームにおいてこそ、安心して自らの意見を述べたり、自己の仮説を発表したり、他者の意見や考えを共感的に受け止めたりすることが可能になります。

自ら考え、選択し、決定し、発表し、実践する体験としての学びの循環を通じて、児童生徒が主体的・自律的な選択・決定をしていく基盤となる自己指導能力を身に付けていくことになります。

【生徒指導提要】P. 43抜粋

花 輪：授業の最初に規範意識を指導することは大切なことだよ。でも、規範意識の醸成のために授業をするわけじゃない。美術の面白さや楽しさに触れながら授業を通して規範意識を醸成していくことが大事なんじゃないかな。

B先生：「自由の相互承認」を基盤としながら、多



「こうしたい」「ああしたい」という思いを持てるように。

様な美術の授業のプロセスを通して一人一人の欲求階層が自己実現へと向かうように。

花 輪：Q4で「学級の支持的風土の醸成」についても軽く触れたけど、美術のために生徒がいるんじゃないって、生徒が育つために「美術と一緒にする」という意識が大切なんだと思うよ。

確かに、教科の独自性としての造形的な見方・考え方や造形的視点は大事だよ。でも、生徒の個性やそういった資質・能力の発揮や伸長にばかり教師の意識が向いたとしても、それを支える土台がしっかりしていないと、美術の魅力を多くの生徒に伝えることができないと思う。僕は作品を作らせる人じゃなくて、美術を通して生徒を育てる人なんだ。

A先生：キーワードは循環ですね。

花 輪：もちろんそれは美術だけじゃなくて、朝の会だったり、係活動だったり、全ての教育活動に共通すると思うけどね。

B先生：落ち着いて自分の日常の実践を見直してみたいと思います。

花 輪：中学校では教科のスペシャリストとして頑張らなければならないということもあるけど、ジェネラリストでいることも求められるから。

A先生：ですよー。頑張ろう自分。

花 輪：徐々にでいいから、自分の教科を軸に少しずつ生徒への眼差しを広げていけばいい。

さて、欲求階層説の説明が長くなったけど、もう少し生徒指導について切り込んでみるよ。もう、生徒指導が問題行動への対応に限った話ではないことは理解できたかな。

B先生：はい。美術教育の考え方で極めて似ているというか。

花 輪：「生徒指導提要」には「教科指導を進めるに当たっては、教科の目標と生徒指導のつながりを意識しながら指導を行うこと」って、ちゃんと書かれている。その際の**生徒指導の実践上の4つの視点**が示されているんだ。

花 輪：これは唯一解ではなくて、様々な近接のことを含むと読むべき。これをベースに、美術の授業レベルに落とし込んでみようか。今回

ココがポイント POINT 4

生徒指導の実践上の視点

- (1) 自己存在感の感受
- (2) 共感的な人間関係の育成
- (3) 自己決定の場の提供
- (4) 安全・安心な風土の醸成

【生徒指導提要】抜粋

は、Qを一つにして深掘りして長くなっているから、どれか一つに絞って話そうか。どれにしたい？

A先生：うーん、迷うけど自己存在感でお願いします！

B先生：私もそれがいいです。

A先生：自己存在感とは、自分も一人の人間として大切にされているってことだから、教師が生徒の活動を認めたり褒めたりすること、たとえ小集団でも認め合えるような場面をつくるってことですよね？

花 輪：もちろんその通りなんだけど、授業レベルに落とし込むには、何を認めたり褒めたりするとよいのかな。

A先生：生徒の活動かな。

B先生：もっと具体的なことかも。

A先生：具体的っていったって、題材によっても違うんじゃない？

花 輪：例えばね、君が作品を作っていたとして、何について褒められたら嬉しいかな。

A先生：工夫したこととか、頑張ったこととか。

花 輪：それは、何に対する工夫や頑張りのの？

A先生：ええと、簡単にいうと主題の実現に向けてでしょうか。

花 輪：その人が褒めてほしい、認めてほしいと思っていることを褒めたり認めたりすることって、とっても大事なことだよ。でも、「君はどこを認めてほしいの？」なんて言えないから、まずはその生徒に主題や工夫の意図を聞くことから始めるといいと思うんだ。

B先生：ああ、そうすれば、そのポイントがわかりますよね！

A先生：生徒自身に語ってもらう！

花 輪：そう。作品制作が主な活動になる時は、机間指導の機会も増えるから、それを中心に声かけを充実させていける。もちろん二人は美術の授業のプロなんだから、生徒が気付かないよさにも言及ができるでしょ。同じ指摘内容でも、最初にそれがあつたのとないのでは、受け取り方もだいぶ変わると思う。いわゆる授業が上手い先生方はみんなやっているんじゃないかしら。

A先生：確かに。先輩の授業を見せてもらった時にそんなやり取りがありました。

B先生：今まで意識したことがありませんでした。反省です。

花 輪：これだったら明日からできるんじゃない？

A先生：はい、これなら自分にもできそうです。

花 輪：褒められたけど、どこを認められたかわかんないって生徒の声を聞いたこともあるから、しっかりとその子のよさを褒めてほしいんだけど、この時に意識してほしいことがもう一つあるんだ。

A先生：うーん、何だろう。

B先生：私、わかったかも。〔共通事項〕に触れるってことですね。造形要素がもたらす感情を理解したり、イメージを捉えたり。そもそも造形的な見方・考え方は教科の独自性なんだし。

A先生：なるほど、そうか！

花 輪：主題を聞く、主題の実現に向けた工夫や頑張りを聞く、その後、それに応じたフィードバックをする時に、教科の言葉でしっかりと認めたり、褒めたり、時には生徒の求めに応じて改善のためのアドバイスする。これ以外の方法もあるけれど、自己存在感の感受にはとても有効な方法なんだ。もちろん、欲求解説の第4段階にも大きく関わることだよ。

B先生：これなら、明日から実践できそうです！

花 輪：それはよかった。もちろん、プロフェッ

ショナルとして生徒が気付いていないよさや可能性についても認めて、褒めてあげてほしいな。

今日は美術の授業を生徒指導の視点で考えてみたけど、どうだった？

B先生：まず、美術教育の考え方で生徒指導の目的との一致点が大きいことに驚きました。そして、明日からできそうなこともたくさんありましたし、まずは、生徒を褒めたり、認めたりする視点が広がった気がします。

A先生：僕も、何となく大切だと思っていたことが、はっきりしました。もっと早く聞けばよかった。

花 輪：そう思うでしょ。でも、今ここで、指導に悩んでいる2人が聞いたことに意味があると思うんだ。その人の今いる文脈によって、聞き方も変わるしさ。

A先生：日々の仕事の中で、なんだか流れてしまうことって多くて。

花 輪：今日話したことは「生徒指導提要」に書かれていることのほんの一部だから、時間をつくってよく読み込んでみるといいと思う。今日は紙面の関係で、一つしか視点に触れられなかったけど、別の機会に他の視点に触れてるとしよう。では、また会える日を楽しみにしているよ。



明日もきっと、子どもたちは成長する。

あとがき

今回は、美術の授業で生きる生徒指導の視点について取り上げました。紙面の関係もあり具体的な指導技術に関しては、机間指導中の働きかけくらいしか触れられませんでした。やはり我々は「作品をつくらせる人」ではなく、「美術の幅広い活動を通して生徒の人間性を育てる人」でありたいと願っています。

私が大学院生として、美術の授業で生きる生徒指導機能について考えていたとき、生徒指導についての問題行動への対応の資料ばかりで、私が生まれる前に出版された「生徒指導の手引き」を手掛かりにしていたことを思い出しました。また、当時の文献には、生徒指導の3つの構えとして「安心」「充実」「自己有用」と示されていたことから、この3つの視点を教科経営に反映させようと、様々な手立てに取り組んだことを懐かしく思います。

平成29年の学習指導要領改訂で、各教科の目標に「人間性」が取り上げられました。美術では、既に自由画教育以降（例えば岸田劉生による情操教育論など）には人間性、あるいは人間性の表現ということが言われてきました。全くの私見ですが、やっとなんか教科を通した人間性の教育に気がついたということと同時に、それを教科経営の中心に据えなければ、また、作品をどう作らせるかといった前時代的な授業を続けるならば、「美術不要論」や「美術選択教科論」に拍車をかけることになってしまうと思います。

令和の時代の教育は「人間としての強み」の発揮

が求められます。誤解を恐れずに言いますが、それこそが美術やアートを通した人間性の発揮となるのではないかと思うのです。

これからの時代に求められる人材育成論を鑑みても、みんなで上靴を描くとか、自分の名前やレタリングを明朝体で描くなどといった題材がふさわしいとも思えませんし、そこに人間性を育てる教師の意図が働いているとも思えません。

美術を大好きな先生が、美術を大好きな生徒に美術の魅力を伝えることは簡単です。なぜなら何も言わなくても美術を共に学ぶという合意形成が成立しているからです。しかし、そういった生徒は学級の何割でしょうか。

私たちは、全ての生徒に美術による学びの恩恵を届ける義務があると思うのです。

花輪 大輔

【著者プロフィール】

はなわ だいすけ
花輪 大輔（北海道教育大学札幌校 教授）

日本文教出版『中学校美術教科書（令和3年度版、令和7年度版）』及び秀学社『美術資料（北海道版）』著者。

【お問い合わせ先】

お問い合わせは、小社ホームページ「お問い合わせフォーム」よりお願いいたします。

hanawa.daisuke@s.hokkyodai.ac.jp

011-778-0968（B301 研究室直通）

【表紙・本文イラスト】

まつもと けいこ
松本 佳子

中学美術 B301 相談室 vol.6

日文教授用資料 [中学校美術]
令和6年(2024年)5月23日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33727

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市東区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690